

一葉は24歳で短い生涯を閉じたが、「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」は、同じ明治28年に書かれ、一葉文学のピークを示すもので、特に「たけくらべ」は、明治の小説の中でもトップを争う作品とされている。吉原という遊郭の特異な世界周辺に住む少年少女たちの生態と成長をいきいきと描いた短編である。

構成・演出／壤 晴彦

★「たけくらべ」の子どもたち

解説／澤田 章子

「たけくらべ」に生き生きと描かれた子どもたち。その暮らしと心の内からは、明治中期の世相が見えてきます。貧困に追いつめられた一葉の見たものを探ってみましょう。



●澤田 章子 (さわだ あきこ)
一葉研究家。生涯学習の場で、樋口一葉を中心に近代日本文学の作家・作品についての講座を担当。台東区立一葉記念館「一葉祭」(2007年)での記念講演等、一葉作品の鑑賞と普及に努める。著書「樋口一葉」(新日本新書)、「一葉伝—樋口夏子の生涯」(新日本出版社)。

★「たけくらべ」朗読／坂本有子 松島 邦

「ええ厭や厭や 大人になるのは厭なこと、なぜこのように年をばとる…」

郭という大人の世界の傍らで暮す子供たちは幼い頃から大人びている。自分たちの行く末の現実をよく理解せぬまま…



●坂本有子 (さかもと ゆうこ)
伝統芸術を楽しむ会主宰。小学校等での読み聞かせグループ「にじいろのかぜ」代表。近代文学を読む会「沙羅の木」メンバー。

松島とは「ふたりの部屋」ほかで共演。「鶴八鶴次郎」「ベアテ 若き日のエポック」「一葉の恋」では共に制作・出演している。



●松島 邦 (まつしま くに)
NPO日本朗読文化協会会員。「虹のくに」「プラチナ朗読の会」主宰。舞台朗読活動の他、都内各地のカルチャー・朗読教室での朗読講師、小学校の読み聞かせ、高齢者施設での朗読ボランティア・司会等。

生誕の地でおおくりする
樋口一葉 お誕生日公演



樋口一葉は、明治5年5月2日に、内幸町ホールのあるこの地で誕生しました。



★「十三夜」朗読／壤 晴彦

「戻ろうか、戻ろうか、あの鬼のような我が良人のもとに戻ろうか…」

高級官吏の原田に見初められ、切望されて嫁いだお閨。しかし身分の違いからの差別や夫の暴言・背信にもじっと耐えていたが…。思いがけなく出会った幼なじみとの思いの行方は？



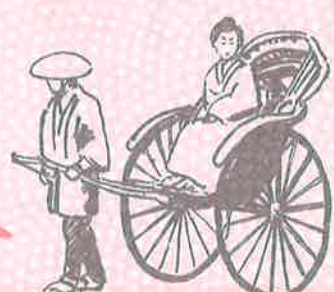
●壤 晴彦 (じょう はるひこ)
俳優・演出家・演劇倶楽部『座』代表。NPO日本朗読文化協会顧問。大阪芸術大学非常勤講師。水戸芸術館朗読スタジオ講師。狂言大蔵流・茂山千作(人間国宝)に師事。劇団四季で「ジーザス・クライスト・スーパースター」等でメインキャストを務める。退団後、蜷川幸雄演出の「テンペスト」「卒塔婆小町」等に主演。各国の演劇祭などに参加、日本を代表する演劇人として活躍。声優としてCM、洋画、アニメ、ナレーション等で活躍中。



演奏／木村俊介

●木村俊介 (きむら しゅんすけ)
和楽器奏者(笛・三味線他)として活躍する一方、作曲家として様々な舞台の音楽監督を務める。また、これまでに世界5大陸30カ国以上の音楽祭に招聘出演。BBC(オランダ)、WDR(ドイツ)などのワールドミュージックメディアにも取り上げられている。

十三夜



千代田区立内幸町ホール 東京都千代田区内幸町1丁目5-1
Tel: 03-3500-5578

会場アクセス

[JR・メトロ銀座線・都営浅草線]新橋駅7番出口より内幸町地下通路経由、徒歩5分。
[都営三田線]内幸町駅A5番出口より徒歩5分。

